日本歯科大学新潟病院と地域医療をむすぶ

Vol.50
2023.12.1

日本歯科大学新潟病院
IVY NEWS LETTER

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

日本歯科大学在宅ケア新潟クリニックがめざすもの

日本歯科大学在宅ケア新潟クリニック 院長
田中　彰

2023年4月に日本歯科大学在宅ケア新潟クリニックの院長を拝命いたしました。おかげさまで開院以来、県央地域の多くの皆様にご利用いただき、感謝しておりますが、新たな課題も生じております。現況と今後の展望についてお話しさせていただきます。

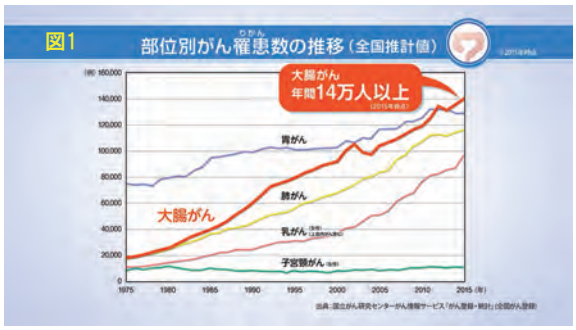
急速な高齢化社会の進行に伴い、高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で最後まで暮らせることを目的に、国策として、地域包括ケアシステムの構築が進められています。これは、医療･介護･予防･住まい･生活支援などの様々なサービスを一体的に提供する体制で、様々な職種が関わりながら、各地域で体制づくりが行われています。この実現に向けて、急性期医療と在宅医療と介護･福祉の連携強化が重要となり、歯科もこのネットワークの一員としての役割分担が求められています。しかし、開業歯科診療所は、救急の訪問歯科診療への応需や特別な配慮が必要な患者への対応が困難なことも多く、1.5次の訪問歯科診療を行う診療所の必要性が生じていました。そのニーズにお応えするために、5年前に本学は、三条市内に在宅ケア新潟クリニックを開設し、地域の皆様にご利用いただいて参りました。しかし、現在、地域医療を取り巻く状況は新たなフェイズに突入しています。地域医療は国が主導する地域医療構想のもとで、疾病構造や人口構造の変化に対応した地域ごとの現状に即した医療体制へと再構築が求められ、各々の病院は、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の病床機能への分化と連携を促進し、競合から病院間の連携の時代を迎えようとしています。県央地域ではこの構想のもとで、済生会新潟県央基幹病院が2024年3月に開院し、周辺の急性期病院は回復期、慢性期病院へと役割を変えて連携を強化する予定です。それぞれの病院が機能転換、連携を深化させる中で、歯科の立ち位置もより複雑化し、医科との連携体制の強化が必要となります。病院間を転院しながら療養を続ける患者さんの歯科治療や口腔健康管理（口腔ケア）を生活の場に至るまで継続させる必要が生じてくるのです。幸い、新潟県歯科医師会は各医療圏地域歯科医師会単位に在宅歯科医療連携室を設置しており、病院と施設、在宅医療の場を結ぶハブの役割を行う機能を有していますので、在宅ケア新潟クリニックは、同室との関係性をこれまで以上に密にしながら、地域歯科診療所、新たな地域の病院との連携を深めるべく体制強化、医療機能の充実を検討して参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

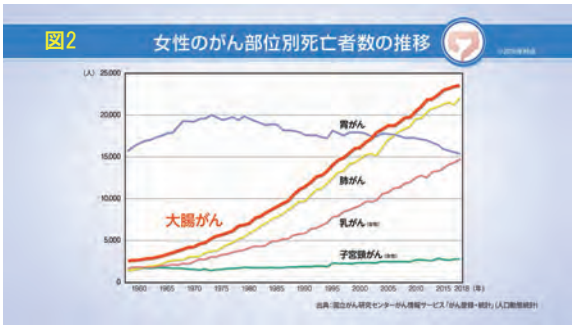
まずは大腸がん検診を受けましょう

●内科学講座
准教授
廣野　　玄

◆大腸がんは増えている

2019年国立がん研究センターのデータによれば、日本人が一生のうちにがんと診断される確率は、男性　65.5%、女性　51.2%と男女ともに2人に1人が罹患すると言われています。また、男女合計で見た場合、その中で最も多いがんは大腸がんであり、近年増加傾向にあり、今や年間14万人以上が罹患していることが知られています（図1）。また、大腸がんは女性のがん死因の1位であり（図2）、男女合計で見ると毎年5万人以上が大腸がんで死亡しています（図3）。



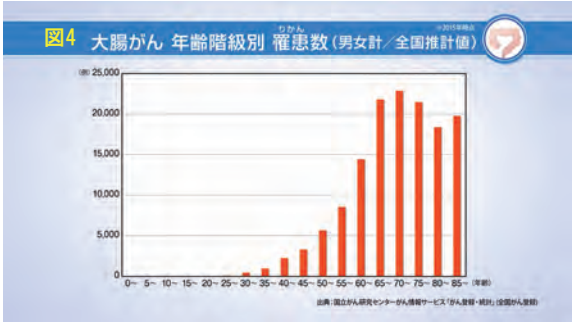


◆誰もがなりうる大腸がん、まずは大腸がん検診（検便）から受けてみましょう

大腸がんが増えてきた原因の一つに、日本人の食事の欧米化が挙げられていますが、はっきりとしたことはわかっていません。胃がんの原因は胃内のピロリ菌感染、食道がんの原因は喫煙と飲酒、肺がんの原因は喫煙とわかっておりますが、大腸がんは決まった原因はわかってはおらず、誰もがなりうるがんなのです。

大腸がんは、まず大腸に大腸腺腫という数mmほどの良性の腫瘍性ポリープができ、その

中でも確率は少ないのですが、数年をかけてたまたま大きくなってしまったものが大腸がんになるのです。ですから大腸腺腫を取り除くことが将来の大腸がんの予防につながるのです。私が中高年の方に初めて大腸カメラをすると、殆どの方にいくつかの小さな大腸腺腫を認め、その都度それらを取り除いています。大腸腺腫と同様に、大腸がんは40歳台頃から少しずつ増えて見つかることが多いため（図4）、その年代になったら大腸カメラを受けることが望ましいのですが、いきなりの大腸カメラは抵抗があるかと思います。まずは大腸がん検診である検便から受けてみましょう。新潟市では40歳以上であれば誰でも受けることができます。医療機関に問い合わせてみましょう。



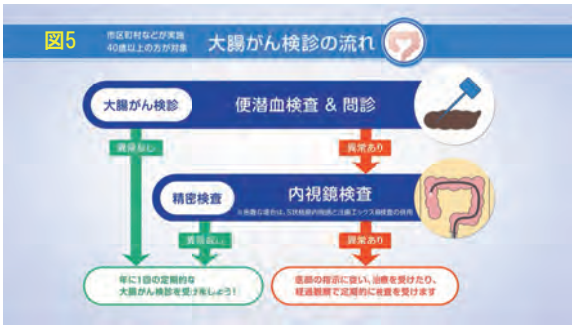


図5に新潟市の大腸がん検診の流れを示しました。大腸がん検診は、今年は問題がなかったとしても来年はわからないため、毎年一回受けることが大事です。一度でも検査異常（便潜血陽性）と診断されれば大腸カメラが必要です。よく「便潜血陽性は痔があるため」と思いこみ、大腸カメラを受けに医療機関を受診されない方がおられますが、安心のため一度は大腸カメラを受けてみましょう。もし大腸カメラを受けてポリープがなく、痔だけであったのなら、検査異常は痔のためだとわかりますし、一度大腸カメラを受けて問題がなかった場合、3年間は安心と言われております。

◆通常の大腸カメラに抵抗がある方は鎮静下で

大腸カメラは通常は覚醒下で行いますが、検査に不安がある方や以前行った大腸カメラでとても痛みがあってつらかったという方には鎮静下大腸カメラをお勧めします。当院では外来で鎮静下でも検査を受けることが可能で、眠っている間に楽に大腸カメラを受けることができます。ただし、鎮静下大腸カメラを受ける場合、当日は車の運転はできません。詳細は当院内科外来（午後）にお問い合わせください。

◆最後に

大腸がんは、まずは検便という非常に簡便な検査で早期に見つけることができます。早期の大腸がんであれば外科的な手術は必要なく、内視鏡で治療が可能の事が多いのです。少しでも大腸がんで苦しまれる方が少なくなれば、という思いで今回執筆をさせていただきました。

歯科診療における
ポケットサイズエコーの有用性

●口腔外科
講師
赤柴　竜

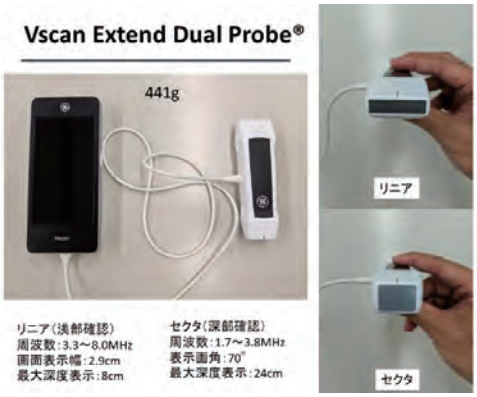
◆はじめに

超音波診断装置（以下エコー）は非侵襲的に体内を撮像できリアルタイム表示を実現する機器です。また、血流、癒着や浸潤の有無、触診では判断できない深部の情報を得ることができ、口腔顎顔面領域の疾患の診断に必要不可欠な画像検査でもあります。

近年、ポケットサイズのエコー（ポケットエコー）と呼ばれる携帯式の小型エコーが普及しており救急、在宅医療等に有用とされていますが、日常診療の場にどのように活用するか、現在も各領域で検証中です。

誰でも簡単にパッとプローブを当てることができる、という素晴らしい臨床現場での感覚を我々も是非享受したい!という思いから、当科でもポケットエコー（GE Healthcare Vscan Extend®）を採用しましたので、その特徴や使用実績等を紹介します。

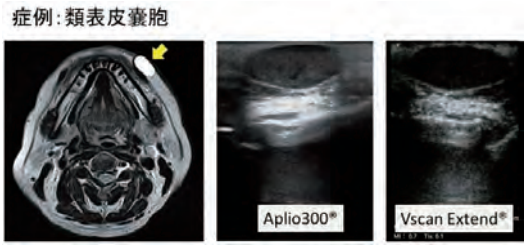
◆ポケットエコー



当院で採用の超音波装置

	メリット	デメリット
設置型エコー （当院採用：Aplio300®）	✧ 解像度が良い ✧ エラストグラフィ・パワードプラ等の機能充実	◆ 使用までのアクセスが悪い ◆ 機動力に乏しい ◆ 高価
ポケットエコー （当院採用：Vscan Extend®）	✧ 使用アクセスが良い ✧ 機動力に優れる ✧ 操作が簡単	◆ 解像度が悪い ◆ 近距離が見えにくい

◆使用例



●症例１：軟組織病変

当科における軟組織病変10例の設置型エコーとポケットエコーの比較では最大径の誤差は平均0.97mmであり、境界、形、大きさのスクリーニングとして有用でした。

●症例２：膿瘍

膿瘍は無エコーもしくは低エコー（黄色矢印）として描出されます。当科での蜂窩織炎7例の検討では、全例で膿瘍腔の診断が可能で、さらにドレナージ時における膿瘍腔内の器具の確認（赤矢印）が可能でした。

●症例３：骨折

顎骨骨折におけるエコー診断のポイントは皮質骨の断裂（黄色矢印）と周囲の血腫（赤矢印）です。皮質骨の断裂があれば、ポケットエコーでも診断は容易です。

●教　育

ポケットエコーの携帯性、リアルタイムでの可視化により、外来・ベッドサイドでの学生教育にも非常に効果的です。

◆まとめ

今回紹介した使用例の他、頸部リンパ節や嚥下の評価等、様々な場面でこのデバイスは活躍が期待されています。最近ではコードレスで自分のスマートフォンと組み合わせて使用する新型も登場しており、ますます利便性、使用感が向上すると思われます。

日本歯科大学新潟病院においては、常に新しい技術を取り入れ、患者さんにより良い医療が提供できるよう今後も取り組んでいきたいと思います。

電話･FAXによる事前予約のお願い

日頃より本院の地域歯科医療連携業務につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本院では患者様の待ち時間短縮と患者サービス向上を目的とし、FAXによる事前予約システムを導入しております。近年、おかげさまで外来患者数が増加傾向となっており、事前予約のない新患患者様の待ち時間が長くなることがあり、ご迷惑をおかけしております。

紹介患者様の待ち時間を短縮した円滑な診療を目的に、是非ともFAXによる事前予約をご利用くださいますようお願い申し上げます。なお、患者様からの直接電話予約も受け付けております。（該当の診療科受付にお電話ください。）

また、口腔外科に抜歯および外科処置目的でご紹介いただいた場合、原則として即日抜歯･即日外科処置は施行しておりません。（緊急時はこの限りではありません。）初診日は、診査･診断のみとなりますので、あわせてご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

年末年始の休診日のご案内

令和5年12月29日㈮～令和6年1月4日㈭まで休診日となります。

1月5日㈮から通常通りの診療となります。ご迷惑をおかけしますが、何卒よろしくお願いいたします。

地域医療連携室

TEL／025-211-8228（歯科）
025-211-8257（医科）
FAX／025-267-1546

地域医療連携室
室　長／小根山隆浩
看護師／神田　　明
ＭＳＷ／山崎佑花子
事　務／本間　未来

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

編集後記

■皆様のおかげで記念すべき「50号」を迎えることができました。感謝申し上げます。
今回は、内科学講座より「大腸がん検診」について、口腔外科より「ポケットサイズエコー」について提供させていただきました。ご確認いただければと思います。
今後もお役に立つ情報が発信できるよう頑張りますので、来年も引き続き宜しくお願い申し上げます。（小根山）

日本歯科大学新潟病院
IVY NEWS LETTER
Vol.50 2023.12.1
発行日／令和5年12月1日　発行人／戸谷 収二
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500（代）FAX 025-267-1546（連携室直通）